

2016（平成28）年度収支決算の概要について

青山学院財務部

2016（平成28）年度決算報告書（学校法人会計及び収益事業部会計）は、2017年5月25日開催の理事会で承認されましたので、ここにご報告いたします。決算の詳細は、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表等をご覧ください。

そのうちの事業活動収支について概要をご説明いたします。事業活動全体では、事業活動収入計395.1億円、事業活動支出計345.9億円となりましたので、基本金組入前当年度収支差額は49.1億円の収入超過となりました。

事業活動別に見ますと、教育活動収支差額は0.4億円の支出超過、教育活動外収支差額は、収益事業部会計からの0.6億円を加え4.0億円の収入超過となり、教育活動収支差額と教育活動外収支差額の二つを合わせた経常収支差額は3.5億円の収入超過となりました。経常的な収支を除く特別収支差額は45.6億円の収入超過となり、経常収支差額3.5億円と特別収支差額45.6億円の合計が、基本金組入前当年度収支差額49.1億円となります。

科目別に主なものを見ますと、授業料等の学生生徒等納付金266.0億円は、大学新設学部の新設や大学、女子短期大学、高等部の学費改定効果などにより、前年比4.6億円の増収となりました。また寄付金（施設設備寄付金も含む）10.8億円は4.3億円の増収となっております。人件費186.3億円は、前年比5.8億円の減少となりました。教育研究経費116.6億円には、ICTネットワーク関連費用5.1億円、大学図書館業務委託費用2.3億円などが含まれ、前年比では0.9億円の減少です。管理経費39.1億円は、前年比18.8億円の増加となりました。特別収支の資産売却差額（有価証券売却差額）42.9億円は、主に奨学金のための特定資産について、資金運用のリスク管理の観点から金融商品の入れ替えを行ったことにより計上されたものです。

このほか、資金収支計算書に計上する主なものとして、施設関係支出で、中等部校舎建替工事27.3億円、設備関係支出で、中等部ICTネットワーク機器等1.3億円、大学CALL教室AV機器等1.1億円、大学図書（資産）0.7億円などがあります。また学生、生徒、児童、園児の安全安心のため、青山・相模原の両キャンパスにおける校舎等の天井耐震補強工事（5カ所）計2.2億円も実施いたしました。

本年2月には中等部校舎建替の第I期工事が完了し、中等部では教科センター方式を採用した新たな環境で新学期を迎えました。当年度の収支状況は、前年度同様、有価証券の売却益という臨時的な要素が大きく影響しており、安定的な収入増が確保できたとは言えませんが、今後も教育の質の向上、教育研究環境の充実、AOYAMA VISIONの実現に向けて、財政基盤の強化を図ってまいります。

以上